

寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発

1 中核機関・研究総括者

(独)農業技術研究機構東北農業研究センター
岡田 益己

2 研究期間

2003～2005年度(3年間)

3 研究目的

北国の冬の寒さを利用し栄養価を高める寒締め野菜は、冬期就農の機会拡大と、地元への生鮮野菜供給の両面で期待が大きい。本研究では、寒締め野菜の品質・供給量を安定化させるため、必要な環境調節シナリオを策定する。さらに気象、生育、出荷・市況等の情報を集約・分析し、生産・流通を支援するシステムを開発する。

4 研究内容及び実施体制

環境調節シナリオの策定((独)農業技術研究機構東北農業研究センター、(独)農業技術研究機構北海道農業研究センター、岩手県農業研究センター、秋田県立大学、福島県農業試験場)

ハウス換気やべたがけ・トンネルなどの生長促進・抑制効果と生長調節可能範囲を定量化し、対象地域に適した作付計画を定め、凍害を抑制し栄養価を高める環境管理法を策定する。

品目の拡大((独)農業技術研究機構東北農業研究センター、(独)農業技術研究機構北海道農業研究センター、福島県農業試験場)

関係機関で実施する栽培試験や現地観測結果を基に、各種品目の寒締め栽培の南限・北限を明らかにし、適用可能な作物・品種の範囲を定める。

生産支援システムの開発((独)農業技術研究機構東北農業研究センター、農業情報コンサルティング(株)、JA十和田市農業技術センター)

個々のハウス気象データを収集する低価格ネットワークシステムを開発し、生育情報、出荷・市況情報などをデータベース化し、で作成した環境調節シナリオに従い、生産者の栽培管理を支援するシステムを構築する。

5 目標とする成果

生産者に栽培プロセスの環境調節方法を定量的に示すガイドラインと生産支援システムを構築し、寒締め野菜の品質安定化、品目の拡大を図り、寒締め野菜の広汎な普及・流通の拡大に貢献する。